

人と自然と文化にやさしい地域づくり

山口県教育

Education of the Yamaguchi prefecture

人間性豊かに生きる —「人間性」を求める—

4

令和5年 No.1334



令和4年度 第75回山口県学校美術展覧会 推奨作品
「湧き出る興味」

周防大島町立大島中学校 3年(受賞時) 屋敷 香凜

一般財団法人 山口県教育会

〒753-0072 山口市大手町2-18 TEL 083-922-0383 FAX 083-922-5768

URL <http://www.ykyoikuk.or.jp> E-mail ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp

明治36年4月第1号 毎月1日発行 発行人 会長:倉増誠彦/編集長:重枝謙二



■特別号

(一財) 山口県教育会の活動

■人間性豊かに生きる

—「人間性」を求める—

■令和4年度助成事業の概要

■わたしの学校経営

下関市立文関小学校 校長 宮内 辰夫
柳井市立柳井中学校 校長 高来 英行

■わたしの学級づくり

山口市立大殿小学校 教諭 今里 太郎
萩市立椿西小学校 教諭 田中 出穂
光市立浅江中学校 教諭 児玉美希子
山陽小野田市立小野田中学校 教諭 吉屋 茗衣

■地域の心を育む

童謡を歌う会「赤とんぼ」

会長 三村 栄子

■学校と地域を結ぶ

栗野地区社会福祉協議会

会長 塩田 實

あなたの アクションは…

山口県教育会がすすめる
「元気やまぐち」3つのアクション

- ◎あいさつ 返事で 明るいやまぐち
- ◎笑顔でつなぐ 安心やまぐち
- ◎ゴミ 落書きのない美しいやまぐち

令和5年度（一財）山口県教育会の活動

I 活動方針



人間性豊かに生きる（2年次／4年計画）

—「人間性」を求める—（2年次／2年計画）—

平成26年度から、支部活動や事業展開を通して解明に取り組んできた主題「明日を拓く」は、7年計画の最終年次に起きた新型コロナ感染症拡大の影響により、諸事業の実施を1年延長し実質8年間の取組を経て、県内小・中・高等学校や園の研究活動、さらには支部活動に助成を行い活性化を図ることにより一定の成果を得て終了を迎えた。

昨年度から、新たに「人間性豊かに生きる」を研究主題として、事業展開や支部活動に取り組んでいる。この主題は、激しく変化し先行きの見えにくい時代にあって、子どもも大人も自分を見失わず自立した人間として社会と深く関わりながら自分の生き方を磨く存在へと高めたいという願いに基づいている。

学習指導要領などを見ると「豊かな人間性」という言葉が目に付く。「豊かな人間性」を育むことは、教育の中でも重要な要素として捉えられていることが分かる。また、「人間性」という言葉を調べてみると「人間として本性」「人間らしさ」であると述べられている。

未来を担う子ども達、そして私たち大人は、具体的にどのような資質や能力を備えれば、学ぶことと社会とのつながりを追求しながら人間らしく生きる、すなわち「人間性豊かに生きる」ことができるのだろうか。

新しい研究主題の下で取り組む2年次も引き続き、「人間性」について、様々な事業や研究活動、支部活動を通して追求したいと考えている。

具体的には、下記の方針により活動を具体化したいと考える。

- ① これまで一貫して取り組んできた「教育世論の高揚」「教育研究の奨励」「教育環境の整備」「教育事績の顕彰」「文化遺産の継承」は、本会の事業立ての柱として踏襲する。
- ② とりわけ「教育世論の高揚」にかかる事業においては、激しく変化し先行きが見えにくい時代の中で、「人間性豊かに生きる」という視点からどのような資質・能力を育めばよいか、また、その方途はどうあるべきかということを意識して取り組むことができるよう機会を捉えて関係者に働きかける。
- ③ 「教育研究の奨励」にかかる助成事業においても、本研究主題の趣旨を啓発するとともに、主題解明により迫る教育研究を積極的に評価・助成を行う。

II 事業

1 教育世論の高揚事業

○教育県民大会の開催

第74回日本連合教育会研究大会山口大会

第50回山口県教育県民大会

主催 日本連合教育会、（一財）山口県教育会

期日 令和5年8月17日(木)・18日(金)

会場 山口市民会館他

大会主題

時代の変化を前向きに捉え

志高く人間性豊かに未来を創造する日本人の育成

内容

17日(木) 青年教師の会

18日(金) ・開会式・全体会
・記念講演

講師 東京2020パラリンピック

女子マラソン金メダリスト

道下 美里 様

演題 チームでつかんだ金メダル

・アトラクション

・分科会

※大会の詳細は5月号に掲載します。大会案内はホームページからダウンロードできます。

○「元気やまぐち」三つのアクション

(平成17年度山陽小野田大会にて採択されました)

・あいさつ 反事で 明るいやまぐち

【「おはよう」「ありがとう」大きな声で】

・笑顔でつなぐ 安心やまぐち

【ジョギング 散歩 安心ネット（見守り隊）】

・ゴミ 落書きのない 美しいやまぐち

【拾おう 消そう みんなで実践】

○地区別教育振興フォーラム

時期 令和5年11月1日(木)～7日(火)の教育週間を中心
に実施する。

会場 各地区的開催担当支部が決定する

内容 体験や地域活動の発表、講話、シンポジウム等

○教育活動の情報発信

・情報紙「山口県教育」の編集・毎月発行

特別号（4月、11・12月合冊し山口大会報告）

・ホームページの随時更新

※令和4年度の現職研修助成事業と地域活性化活動助

成事業の活動報告はホームページ（トップページ>事業）から閲覧できます。

2 教育研究の奨励事業**○現職研修助成事業**

対象 個人、学校、同一校職員によるグループ、複数校職員によるサークル

対象とする研修

- ・教育課程の編成、実践、指導法の工夫、教材開発、評価の研修など
- ・研修会、研究発表会、講演会等の開催及び研究集録等の刊行など
- ・研究発表大会、学会への参加や先進地の視察など

助成金額及び助成件数

種 別	助成金額	助成件数	留意点
学校研修(※)	5万円	若干数	原則1校につき1件
	4万円	10件程度	
	3万円	40件程度	
グループ研修 サークル研修	3万円	5件程度	各部1校につき1件、大規模校は2件以内
個人研修	3万円	5件程度	

※「学校研修」助成は「教育会加入率が60%以上、又は会員数25名以上とのいずれかであることが望ましい」としています。

※同一の申請者が「現職研修助成事業 学校研修」と「地域活性化活動助成事業」の両方を申請することは避けてください。

申込締切 令和5年6月9日(金)

○教育団体研究補助事業**(1) 教育団体が主催する本県で開催される全国大会、中国四国大会等**

補助金額 5万円～10万円

(2) 小学校教育研究会、中学校教育研究会、公立学校教頭会が実施する教育研究会

補助金額 各団体につき15万円

申込締切 令和5年5月26日(金)

※今年度、「授業力アップセミナー」は実施しません。



心情の見える化(柳浜小)



縦割り班読み聞かせ(豊田下小)



遠隔交流学習(塩田小)

3 教育環境の整備事業**○地域活性化活動助成事業****対象**

- ・趣旨に適合した一般団体及び学校
- ・学校と連携して地域の活性化に取り組むPTA
- ・学校と連携して地域の活性化に取り組むグループ、団体

対象とする活動

- ・地域の活性化を図る計画的、継続的な教育活動
- ・学校支援の活動、地域の子どもたちの教育支援及び教育環境整備の活動
- ・地域の伝統文化、文化遺産等の継承活動

助成金額及び助成件数

助成金額	助成件数	留 意 点
5万円	若干数	・1団体につき1件
4万円	10件程度	・1校につき1件、大規模校が諸団体と連携する場合は2件以内
3万円	50件程度	・申請者は、会員であることが望ましい。

申込締切 令和5年6月9日(金)



湯田温泉まつり会員パレード



出前あいさつ運動(東部中)

○支部活動振興助成事業

対象 山口県教育会各支部
各支部と連携する団体

対象となる活動

- ・支部組織・機構の整備、充実活動
- ・教育世論を喚起・結集する活動
- ・地域の伝統文化、文化遺産等の継承活動
- ・青少年の健全育成活動
- ・学校、地域との連携活動
- ・会員確保の取組(2万円程度)

助成金額

年間助成金総額は80万円以内とし、その範囲内で事業内容等を勘案して助成金額を決定する。

申込締切 令和5年7月7日(金)

○地域活動の推進**○支部組織の充実**

- ・支部研修会の充実
- ・支部組織の充実と教育会活動の推進
- ・会員9,000名以上目標
(小・中学校現職教職員の70%加入を目指す)

○学校、公民館(地域交流センター)、自治会等との連携の推進**終身会員の紹介**

平原 俊一 様 (大島)

池永 智宏 様 (萩)

山崎 隆英 様 (防府)

終身会員の紹介

故) 山根 典明 様 (山口)

山口県教育会の発展にご芳志をいただきました。
ありがとうございます。

人間性豊かに生きる -「人間性」を求める-

4 教育事績の顕彰事業

○「わたしの志」作文の募集と表彰

第14回「わたしの志」作文募集

- ・**募集部門** 小学生（4年生以上）、中学生、高校生の3部門
- ・**賞** 山口県教育委員会教育長賞（最優秀）一編
山口県教育会長賞（優秀）各部門一編
松風会理事長賞（優秀）一編
努力賞（佳作）各部門数編

・表彰式

令和5年11月11日(土)に山口県教育会館で表彰式を行う。

・表彰作品の発表

最優秀作品は、表彰式において作者が朗読を行うとともに、山口県教育会が発行する情報紙「山口県教育」に掲載する。

最優秀作品を含む優秀作品は、山口県教育会のホームページにおいて公表する。

・応募締切 令和5年9月6日(火)

- 松陰に親しむ会 (令和4年度防府・萩支部)
- 松陰の道歩行大会 (令和4年度防府・萩支部)
- 松陰研修グループの支援 (令和4年度萩支部)
- 徳地史談会 (令和4年度佐波支部)
- 郷土の偉人・文化に学ぶ会 (令和4年度防府支部)
- 松風会共催事業の支援

5 文化遺産の継承事業

○「金子みすゞ賞」童謡詩の募集と表彰

第35回「金子みすゞ賞」童謡詩募集

- ・**募集部門** 小学生、中学生、高校生・一般の3部門
- ・**賞** 山口県教育委員会教育長賞（最優秀）一編
山口県教育会長賞（優秀）各部門一編
努力賞（佳作）各部門数編
学校賞 一校

・表彰式

令和5年11月11日(土)に山口県教育会館で表彰式を行う。

・表彰作品の発表

最優秀作品は、表彰式において作者が朗誦を行うとともに、山口県教育会が発行する情報紙「山口県教育」に掲載する。

最優秀作品を含む優秀作品は、山口県教育会のホームページにおいて公表する。

・募集締切 令和5年9月6日(火)

○支部、地域の文化活動の支援

- ・地域の伝統行事「もみ山」の保存、継承 (大島支部)
- ・月性剣舞保存会継承活動 (柳井支部)
- ・重源太鼓継承活動 (佐波支部)
- ・カルスト草炎太鼓継承活動 (美祢支部)
- ・「平家踊り」継承活動 (下関支部)

6 編集出版等事業

・教育関係書籍

「高校生活への道しるべ」「思春期の子どもをもつ親の悩みに答える20章」

・吉田松陰関係書籍

「松陰読本」「松陰先生に学ぶ」「維新の先覚 吉田松陰」「松陰と道」

・金子みすゞ関係書籍

「わたしと小鳥とすずと」「ほしとたんぽぽ」「この道をゆこうよ」

・学校関係

「出席簿」「給食日誌」「物資受払簿」「衛生点検票」「検食簿」

「ふるさと山口わが校歌」(CD)、吉田松陰先生座像

7 会館管理運営事業

- ・安全で合理的な会館の運営とサービス向上
- ・研修室、会議室、ホールの稼働率向上
- ・施設・備品の計画的改修と整備

詳しくは、ホームページで

山口県教育会

(<http://www.ykyoikuk.or.jp>)

III 予 算

一般会計

収入の部 (単位：円)

科目	予算額	備考
基本財産運用益	950,000	
受取会費	15,750,000	通常、終身等会費
受取補助金等	2,486,000	黙認認可、上記等
受取寄付金・雑収益	1,386,000	山口大会会費等
評価損益等調整	26,777,000	
収入合計	47,349,000	

支出の部

科目	予算額	備考
事業費	39,158,000	助成金、活動費等
管理費	8,191,000	会議費、通信費等
支出合計	47,349,000	

事業会計

収入の部 (単位：円)

科目	予算額	備考
事業収益	6,884,500	書籍販売
雑収入	461,000	
評価損益等調整	1,403,500	
収入合計	8,749,000	

支出の部

科目	予算額	備考
事業費	7,768,000	印刷費、運搬費等
管理費	981,000	会議費、手数料等
支出合計	8,749,000	

会館会計

収入の部 (単位：円)

科目	予算額	備考
事業収益	13,323,000	ホール・研修室使用料
受取負担金	14,774,000	入居団体負担金
雑収入	301,000	自販機、利息等
経常損益等調整	21,038,000	
収入合計	49,436,000	

支出の部

科目	予算額	備考
事業費	34,598,000	修繕費、消耗品費等
管理費	14,838,000	光熱費、会議費等
支出合計	49,436,000	

助成及び補助事業の実績

1 現職研修助成事業

(合計46件 142万円)

種別	応募件数	採択件数	助成金額
学校研修	56件	38件	118万円
グループ研修	8件	4件	12万円
サークル研修	2件	1件	3万円
個人研修	5件	3件	9万円

3 教育団体研究補助事業

(合計6件 60万円)

団体の部 I

- ・小学校教育研究会 15万円
- ・中学校教育研究会 15万円
- ・公立学校教頭会 15万円

団体の部 II (全国大会・中国大会等)

- ・全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会山口大会 5万円
- ・中四国小学校体育研究大会山口大会 5万円
- ・山口県へき地教育研究大会 5万円

2 地域活性化活動助成事業

(合計54件 168万円)

- 応募件数 65件
- 採択件数・助成金額
 - ・1件 × 5万円 5万円
 - ・4件 × 4万円 16万円
 - ・49件 × 3万円 147万円

4 支部活動振興助成事業

合計 7支部 1団体 19件 62.2万円

令和4年度 件数及び金額の合計

- ・現職研修助成事業 46件 142万円
- ・地域活性化活動助成事業 54件 168万円
- ・教育団体研究補助事業 6件 60万円
- ・支部活動振興助成事業 19件 62.2万円

教育振興フォーラム等の紹介 ~人間性豊かに生きる~

防府地区教育振興フォーラム阿東大会 R4.11.5 (土) 阿東地域交流センター

ビデオ上映



阿東の教育力と共に

実践発表



- ①生雲小学校
「生雲360度回鑑
～やまぐち子ども未来型学習プロジェクト～」
余田 誠 先生 5年生児童5名
- ②阿東中学校
「地域連携を核としたキャリア教育」
江本 和浩 校長先生
- ③阿東東中学校
「さわやかで かしこくて
応援される阿東東中学校をめざして」
栗林 和弘 校長先生

講演



「阿東の遺跡・名勝について」
山口県埋文化財センター
文化財専門委員
井上 広之 様

挨拶



山口県教育会事務局長
山本 晃久

ビデオ制作
阿東支部会員
大野 進二 様



阿東支部長
吉岡 主税

下関地区教育振興フォーラム 兼 教育シンポ下関 R5.2.4(土) 下関市教育センター

太鼓演奏

下関市立本村小学校
平家踊りを受け継ぐ子の会

シンポジウム

～運動部活動の地域移行を考える～

挨拶



下関市 副市長
北島 洋平 様



下関市教育委員会
児玉 典彦 様

登壇者（左から）

地域クラブ：コミュニティクラブ東亞 会長 有賀 俊一

企業クラブ：株式会社ミカド交設 代表取締役 様

（進行）下関市PTA連合会 吉野 一彦

下関市中学校体育連盟 久保美千子

下関市中学校長会 打田 敦志

下関市教育委員会生徒指導推進室 川畠 誠治

室長 中尾 琢磨



下関支部長
朝原 嘉彦



山口県教育会会长
倉塙 誠彦

ふるさと愛に溢れた、

感じのよい文関小学校に



下関市立文関小学校

校長 宮内辰夫

敬 愛

訓 校

為最古小學校
寄下関市
小笠原長生書

以前「教諭」として長く勤めた学校に、昨年度「校長」として戻ってきました。当時の教え子たちは保護者となり、当時のPTAの方々は地域のリーダーとなつて、顔見知りの私を今、力強く支えてくださっています。

下関市最古の文関小学校は、「愛・敬・信」を校訓に創立152年目を迎え、450名の子どもたちを学校家庭・地域が一体となつて支えるコミュニティ・スクールとして、地域連携・協働を取り組んでいます。

チャレンジ目標は、「笑顔いっぱい」「感じのよい」文関小学校、子どもたちの元気なさいさつや歌声、踵の揃った靴箱、掃除の行き届いた校舎が、きっと保護者、地域の皆様を感じよくお迎えすることでしょう。

さて、昨秋、近年途絶えていた「文関フェスティバル」が学校運営協議会をはじめ地域関係者の皆様のお陰で復活しました。夜遅くまで何度も話合いを重ね、「地域の大人たちが本気で子どもたちを楽しませる」とい

く以前「教諭」として長く勤めた学校に、昨年度「校長」として戻ってきました。当時の教え子たちは保護者となり、当時のPTAの方々は地域のリーダーとなつて、顔見知りの私を今、力強く支えてくださっています。

下関市最古の文関小学校は、「愛・敬・信」を校訓に創立152年目を迎え、450名の子どもたちを学校家庭・地域が一体となつて支えるコミュニティ・スクールとして、地域連携・協働を取り組んでいます。

う所期の目的を大盛況という形で達成しました。また、昨冬には、「夢と学力」をテーマに「文関『夢』熟議」を開催し、地域で活躍されている方々を高学年の子どもたちが小グループに分かれで囲み、「ちやぶ台」方式で頭と頭を近づけながら熱く語り合いました。

昨年度、この二つの地域連携・協働の取組を特に重視した理由は、「ふるさと下関」を誇りに思い、地域を愛し、貢献したい気持ちや経験のある子どもたちの割合が僅か50%未満という実態を目にしたからです。

約15年前、子どもたちを真ん中に据え、学校・家庭・地域の一体



感を象徴する「文関フェスティバル」や「文関サミット（首長会議）」「文関ファンクラブ（学校愛好会）」「平成文関維新塾（放課後子ども教室）」等の活動が盛んだった頃を今では懐かしく思います。

子どもたちに「ふるさと愛」を育むことは、学力や生活力の向上をはじめ、他にも様々なメリットが期待できます。この地域の底力を知る者として、子どもたちの心を動かす地域連携・協働の実践を積み上げ、粘り強く子どもたちの意識改革を図つているところです。

現在、地域の読み聞かせボランティア「こんぺいとう」の皆様が、別名グループ「かりんとう」を立ち上げ、学校司書のサポートやイベント、学校図書館のリニューアル計画を積極的に進めてくださっています。

また、子どもたちの学力向上や安心・安全にも効果が期待できる地域ボランティア「朝学丸付け先生」の取組が始まり、業務改善にも繋がると多くの教職員から好評を得て、大幅な増員を迫られています。

さらに、それまで駐車場だった中庭を動植物とふれあう広場として新たに整備し、学校園の一部を使って地域の専門家が年間講師となつて理科の学習を下支えする「文関ふれあい農園」もこの度オープンしました。

こうした取組をとおして、地域の人の顔と役割がはつきりと子どもたちに見えるようになつたことで、地域からの支えに対して「感謝の思いを表現する」「自ら主体となつて地域の方々をもてなす」「進んで地域社会に貢献する」といった次のステップ「ふるさと愛」が、子どもたちだけでなく、保護者や教職員の目にも徐々に明らかになつてきたのではないかと感じています。

35年前、新採教員として掲げた信条「地域に根ざす教育」をこれまで勤めたどの地でも、そして、今なお実践し続けています。地域とともににある開かれた学校だと誰からも認めてもらえるよう、学校の「情報・施設・行事・授業」を可能な限り聞くことが校長として私の使命だと肝に銘じ、街中の学校とはいえ、古巣の利を存分に生かし、「ふるさと愛」たっぷりの地域性豊かな「感じのよい」学校をつくっていきます。

地域とともに、生徒が主役の学校へ



柳井市立柳井中学校

校長 高来英行

「ふるさとを思い 未来を拓く しらかべっ子」これは、柳井中学校区地域協育ネット「しらかべネット」の「育てたい子ども像」である。地域の方々、小・中の教職員、そして生徒代表が熟議を通して、考えたものであり、地域総がかりの取組を推進するよりもある。

学校・地域連携カリキュラム

柳井中学校区には、8つの小学校があり、そのエリアは広範囲に及んでいる。物理的な距離が離れているハンディを乗り越え、思いや願いを共有する道標となるのが「柳井中学校区学校・地域連携カリキュラム」である。これは、「育てたい子ども像」に近づくために必要となる教育課程を、地域連携・知育・德育・体育の四つの観点から紡ぎ出したもので、全小中学校の協議を経てできあがった。令和4年度は、コロナ禍の影響で多少の変更はあるものの、地域の方々の支援を受けながら、このカリキュラムに沿った教育活動が展開できている。

柳井中学校応援団

地域連携を進めるうえで、本校には、力強い「柳井中学校応援団」がいる。学習部では、長期休業中の学習や面接練習、環境整備部では、毎月の「花の日」(各教室に花を生ける活動)や特別支援学級の畑作り、交流部では、職業講話や地域行事への参加など、多岐にわたつて協力してくださっている。これらの活動はカリキュラムに位置づけているものだが、「育てたい子

ども像」に近づくための活動であることを皆で再認識し、見直しを図っていきたいと考えている。

生徒自らが、「育てたい子ども像」に近づく生徒会活動

全校生徒のリーダーとなつて活動する生徒会では、

これまでにも

様々な活動を

自主的に行つ

てきた。その

一つに、「あ

いさつ一万

(day)」の取組

がある。これ

は、毎週月曜

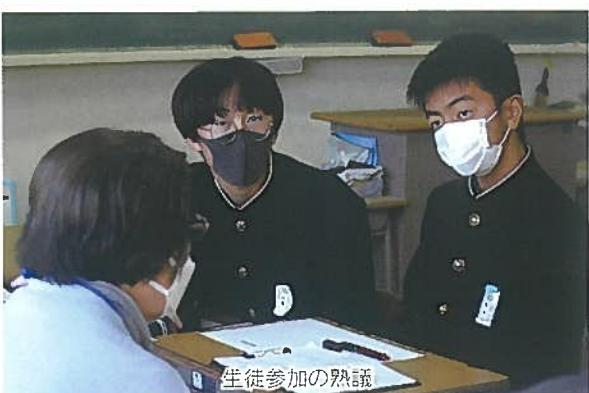
日(Monday)

に気持ちの良

いあいさつを



令和5年度へ向けて



生徒自身が、「育てたい子ども像」を意識し、何ができるかを自ら考え、自分たちで実践していくことで、本当の意味での「生きる力」が醸成されると考えている。そして、生徒の実践力を高めるために重要なのが地域との連携・協働である。生徒は地域の方々とふれあうことで、自分たちの成長を認識し、次の活動への意欲が生まれる。また、生徒の活動が地域の活性化につながっていく。まさしく、人づくりと地域づくりの好循環の創出である。学校の主役は生徒。しかし、主役が上がるステージは学校だけではない。学校で、そして、地域や社会の中でも、主役として活躍できる生徒の育成のため、地域と学校が互いに支え合う学校経営を行いたいと思う。

考え、それを学校運営協議会の熟議の場で提案するよう伝えた。

生徒たちは、大人を前にした提案に緊張しながらも、委員の方々に肯定的に捉えてもらつたことに喜びを感じるとともに、異なる視点からのアドバイスをいただき感謝する様子がうかがえた。「地域行事やボランティア活動への参加」についての提案を行つた生徒会長は、委員の方から「私たち地域の大人は、

中学生と一緒に活動することができると感じている。このことを是非皆さんに伝えてほしい」と言われ、「地域の方々の思いをしっかりと仲間に伝えたい」と熱く語ってくれた。

わたしの学級づくり



先生、いらぬいね

山口市立大殿小学校

教諭
今里
太郎

ある日「経営」という言葉を調べてみると「目的を達成するために継続的・計画的に意思決定を行つて実行に移す」と書かれていました。それ以来、学級づくりの目的や計画について深く考えるようになり、P D C Aサイクルを活用しています。

1年間の経営計画を考えるために4月の最初は出会った子どもたちの観察に多くの時間を費やします。授業や遊び、会話の中で長所や短所、人との関わり方等、個人と集団の現状分析を行います。そこから3月のゴール像を描き、必要な指導等を学期ごと月ごとに順序立てて考えます。慌ただしい4月がさらに大変になりますが、教師の独りよがりな経営ではなく、子どもにとつて必要感のある指導や実態に合つた支援を行うためにも欠かさないようにしています。

また、集団としての成長を土台とし、その先に求める個々人の成長のために、小さなP D C Aも実践していきます。子どもと一対一で話していると「漢字が得意になりたい」「なんかせん遊べるようになりたい」など、その子なりの願いを話してくれます。そのとき、願いを達成するための方法や計画を一緒に考え、P D C Aを実践します。当然うまくいか



文章の良さと課題を伝え合い推敲

ないこともあります、子どもと一緒に振り返り、「これはうまくいったね」とか「違う方法を試そうか」という風に評価、改善を繰り返すうちに、目的達成に向けたサイクルを子どもたちが身に付けます。現状分析から課題を見付け、努力の仕方を考え、実践し評価・改善する過程を、学校や家庭での学習や生活、様々な場面で、教師なしでも実践するようになり、自分で自分をどんどん成長させていきます。

成長した子どもたちに「先生、いらっしゃいね」と笑顔で言える日を目指して、成長を実感できる学級を子どもとともにつくっていきたいです。

「あなたは、どんな教師になりたいですか」。

教員採用試験でも聞かれたこの間に明確に答えられるようになつたのは、教育実習で中休みにドッジボールをしていたときのことでした。私がずっとボールに触れられていなかつたおとなしめの女の子にパスをすると、投げたショートがヒット。

「先生のおかげで、生まれて初めて当てられました！」。

その言葉を聞いたとき、私はハッとしたしました。普段は目立たないけれど、潛在的に持っている一人ひとりのよさを、担任の言葉や働きかけで發揮させてあげることができたら、なんて素敵なものだらう。自分は、そんな教師になりたいなあ。そう思つたのを今でも覚えています。

「〇〇さんって、実は聞き上手ですよね。相槌を打つてくれるからすごく話しやすいなあ」「〇〇くんって、実は面白いところあるよね。この前なんて…」。

目立つ子どものパワーも生かしつつ、目立たない子どものよさをしっかりと拾い上げ、朝や帰りの学活で、さりげなく紹介するようにしています。提出物の多い春先には、提出の

催促の電話をかけるときに、必ず見つけたその子のよさを一緒に伝えるようにしています。35人いれば、35格でもどんな個性を持つしていても、みんなが大切な存在。そんなことを常々考えています。

4月。子どもたちの一番の楽しみといえば、クラス替えともう一つ。

そう、担任発表です。「新しい担任の先生はどんな人だろう」「自分のことを見てくれるかな」自分から積極的に教師に関わることのできる一部の子どもたちだけでなく、全員に目を向ける教員でありたいと思っています。

皆様と子どもたちとの出会いが、素敵なものになりますよう



12月19日(月)12:30~13:30 体育館
精米道1袋5kg 1500円(40袋限定)

自分たちで作った「ピッカト米」の販売パンフレット

三十五人三十五色

萩市立椿西小学校

教諭
田中
出種

萩市立椿西小学校
教諭 田中 出穂

みんなが安心して過ごせる。そんな雰囲気の教室でなら、「やつてみようかな」「できるかも」という前向きな気持ちが湧き、自分の新たな可能性や友だちの良さを見つけながら、みんなで成長していくと思っています。



教室掲示



さりげないきっかけで、何気ないコミュニケーション

光市立浅江中学校

教諭 児玉 美希子

話したくなる「掲示物」

秋にはどんぐり（顔や模様をつけた…）、年明けには福笑いなどの季節の風物。友だちのいいところや、授業・行事への想いが綴られた日記、自主学習ノートのコピー。写真、クラス合唱の歌詞、駅伝（クラスマッチ）の櫻など、思い出や成長の証となるもの。掲示物の作製中や掲示物を眺めながら、子ども同士が頬をゆるめて会話を弾ませている姿を見るとうれしくなります。

一日の終わりは「ありがとう」

終わりの会に「今日のありがとう」を取り入れています。「今日も学校に来てくれてありがとう」「ペア学習のとき、教えてくれてありがとう」など、隣同士でその日の「ありがとう」を伝え合います。「ありがとう」という言葉を交わし合って一日を終え、「今日も頑張ったね！」「また明日ね！」と、教室から送り出しています。

【雰囲気】：その場所や、そこにいる人たちが自然に作り出している、あふれる感じ。】

子どもたちにとって、「ここだ！」と思える教室を、さりげなく、何気なく、これからも一緒につくづいていきます。

一人ひとりの存在を示すものとならず、子どもたち全員が書いた文字やイラストを入れることで、折に触れて振り返りながら、1年を通して子どもたちと一緒に大切にしていきます。4月のはじめに決めた学級目標を掲示物にします。それに沿って、子どもたち全員が書いた文字やイラストを入れることで、自分たちだけの特別なもの、クラスのシンボルとして、愛着をもつります。

【雰囲気】：その場所や、そこにいる人たちが自然に作り出している、あふれる感じ。】

子どもたちにとって、「ここだ！」と思える教室を、さりげなく、何気なく、これからも一緒につくづいていきます。



数学の時間に発表をする生徒たち

みんなが安心して過ごせる。そんな雰囲気の教室でなら、「やつてみようかな」「できるかも」という前向きな気持ちが湧き、自分の新たな可能性や友だちの良さを見つけながら、みんなで成長していくと思っています。

大切にしたくなる「学級目標」

「どんなクラスにしたいか？」一人ひとりの思いを全員で共有したうえで考えます。みんなで決めた目標は、折に触れて振り返りながら、1年を通して子どもたちと一緒に大切にしています。

一日の終わりは「ありがとう」

終わりの会に「今日のありがとう」を取り入れています。「今日も学校に来てくれてありがとう」「ペア学習のとき、教えてくれてありがとう」など、隣同士でその日の「ありがとう」を伝え合います。「ありがとう」という言葉を交わし合って一日を終え、「今日も頑張ったね！」「また明日ね！」と、教室から送り出しています。

一人ひとりの存在を示すものとならず、子どもたち全員が書いた文字やイラストを入れることで、自分たちだけの特別なもの、クラスのシンボルとして、愛着をもつります。

【雰囲気】：その場所や、そこにいる人たちが自然に作り出している、あふれる感じ。】

子どもたちにとって、「ここだ！」と思える教室を、さりげなく、何気なく、これからも一緒につくづいていきます。



数学の時間に発表をする生徒たち



生徒を繋ぐ学級経営の在り方

山陽小野田市立小野田中学校

教諭 吉屋 萌衣

と思っています。

二つ目は、私自身が失敗を許すお手本になることです。生徒は担任の何気ない言動をよく見ていています。手当たリ次第に指導を繰り返していると、「先生が1番失敗を認めてくれて話すメッセージであり、学級経営を行う上で最も大切にしていることです。では、「暖かい集団」を作つていくために、どのようなことに取り組んでいるのか。私の実践を二つ紹介します。

一つ目は「生徒と生徒を繋ぐ」活動や場を意識的に取り入れるということです。例えば、学級開きでは、「自己紹介クイズ」、帰りの会の1分間スピーチでは、「質問タイム」を取り入れています。クラスメートのことを知るきっかけをこちらが意図的に仕組むことで、小学校までの人に間関係から、新しい人間関係ができるといき、関係性も深まっていくと思います。また、席替えをする際に、席の位置をわざと操作することもあります。普段、かかわりがなさそうな生徒どうしを近くの席にすると、席替えをきっかけに話すようになります。普段、かかわりがない生徒どうしを近くの席にすると、席替えをきっかけに話すようになります。このように担任は、生徒と生徒を繋ぐ黒子の様な存在でありたい

のついた指導を行うようにしています。毅然と指導しなければいけないことは、命の危険がある行動や、他人の尊厳を傷つける言動などです。学級は担任を映す鏡です。日々、自分の言動を振り返りながら、誰にとつても

良い学級運営を築き上げられるよう、邁進しています。こうと思いません。

一人ひとりの存在を示すものとならず、子どもたち全員が書いた文字やイラストを入れることで、自分たちだけの特別なもの、クラスのシンボルとして、愛着をもつります。

【雰囲気】：その場所や、そこにいる人たちが自然に作り出している、あふれる感じ。】

子どもたちにとって、「ここだ！」と思える教室を、さりげなく、何気なく、これからも一緒につくづいていきます。



数学の時間に発表をする生徒たち

♪地域の心を育む♪

童謡の輪を仲間から地域へ

—私達の活動—



童謡を歌う会「赤とんぼ」

会長 三 村 恭 子



高齢者施設を訪問

会の発足と目的
童謡を歌う会「赤とんぼ」は、日本人の心の故郷・童謡を歌うことによって仲間づくりや心豊かな生活を目指すとともに、地域の人々に日本の情緒豊かな美しい伝統文化である童謡の輪を広げていくことを目的として平成15年4月に発足した混声合唱団です。

定期練習の様子

月1回の定例会では、发声練習やパート別練習の他、指揮やピアノの先生方の温かい指導のもと、和やかな雰囲気の中で、歌詞を大事にしながら童謡・唱歌などを皆で声を合わせ、楽しく練習しています。練習を積み重ね3部（ソプラノ・アルト・バス）の美しいハーモニーができたときは、心地よく充実感を覚えます。

メンバーは、歌うことが好きで、音楽を愛する者たち。殆どが70代、80代ですが、声を出すことで元気になり、リフレッシュしています。

地域における取組

コロナ流行前は、多くの高齢者施設などを訪問し、交流を重ねてきました。童謡をご存知の方が多く、私たちの歌声に合わせ一緒に歌われたり、レクリエーションをして楽しい時を過ごせたりします。体でリズムを取られたり、楽しそうに歌われる方々を見ると、とても嬉しいこちらが元気をもらっています。涙を流し喜んで下さる方や別れを惜しんで下さる方もおられて胸が熱くなり、私たちの活動の原動力になっています。

平成4年度は設立以来20年目という大きな節目の童謡を歌う会「赤とんぼ」20周年のつどい

また、次世代にも童謡を継承していくべく、周東町内の各小学校と訪問交流が実現できました。私たちの合唱の他、共に歌つたり、子どもたちの生命力や躍动感溢れる歌にも触れたり、幸せな掛け替えのないひと時になっています。

中央地区文化祭や生涯学習発表会などの地域行事や各種イベントにも参加し、平成30年からは何か私たちのできることで少しでもお役に立てばと退職公務員連盟の「タオル一本運動」に協力し、施設や保育園へタオルを届ける活動も行っています。

終わりに

音と心のハーモニーを感じ、楽しみながら仲間と一緒に歌える喜びは、明日への希望に繋がります。平和なかで歌えることの有難さと喜びを大切にしながら、皆で和気あいあいと豊かなひとときを過ごし、今後も地域活動や社会貢献活動を頑張りたいと思っています。「赤とんぼ」は、これからも童謡の持つ温かく優しく、美しい世界を伝えるべく飛んで行きます。



年であり、関係各位・団体のご協力・ご支援を得て、皆で力を合わせ10月末に「20周年のつどい」を周東パストラルホールにて開催しました。私たちの集大成ともいうべき、これまで大切に歌つてきた童謡・唱歌の合唱曲の発表を中心に行、何より会場のに、皆様が一緒になって楽しんでいただけるように、アトラクションや童謡クイズ、会場全体での合唱なども取り入れ、盛会のうちに終えることが出来たことは、私たちにとって大きな喜びでした。終了後、「感動した」「とても楽しかった」と今後の活動の励みとなる有難いお言葉を多くの方々より頂戴し、忘れられない記念すべき催となりました。その後、「ついで」の写真と会員や関係者による文集から構成されたアルバムを作成。今までの思い出や皆の想いが詰まつた一冊となりました。

地域への恩送り



栗野地区社会福祉協議会
会長 塩田 實

私の父は昭和20年4月に満州から現地出兵しました。私は昭和21年2月に満州国奉天市で生まれ、8月に、母と姉の3人で命からがら博多港に引き揚げました。中学校・高校と病氣のため2回も原級しましたが、就職してからは退職まで病欠することもなく働くことができました。

これまで生かされてきた陰には、自分では気づかない有形無形の恩恵を地域から受けたのはずです。健 康で暮らせる恩返しと思い、今は栗野地区社協会長、豈北地区社協連合会長、下関市社協評議員、栗野公民館長などを務めています。

これまでの地域貢献で一番思い出深いのは、栗野小学校のコミュニティースクール・コーディネーターで す。

平成26年から令和2年3月に閉校するまで担当し、いろいろな学校行事のために学校と地域を結ぶ手伝いをしました。

栗野駅をいこいの場にプロジェクト

平成28年度から、児童の発案で春と秋に「栗野駅をいこいの場にプロジェクト」が計画され、栗野駅を1日限定の美術館に見立て、児童が描いた絵を展示し、地域の方にどのような思いで描いたのか発表する「栗野駅をいこいの場にプロジェクト」が始まりました。

わくわく教室と学校掃除ボランティア

児童7人と教職員で掃除するには広すぎるため、平成28年5月から、掃除ボランティアを集めて学校を掃除する活動を始めました。



青のり採り体験

栗野川は冬の青のりが有名です。児童に青のり採り体験をしてもらう行事は全てコーディネーターが準備しました。漁協の許可、船の手配、学校までの運搬、洗つて干すまでの道具、手伝いの人数集めなどです。山口県教育に、6年生が青のり採りの思い出を書いてくれたものがありました。

いろいろ苦労もありましたが、頂上から校舎に向かって校歌を歌う児童を見たとき、閉校後に「地域の方と遊べるわくわく教室が楽しかった」とある児童がと言つていたことを人づてに聞いたとき、青のり採りが楽しかつたと児童が言つてくれたとき、コーディネーターの苦労が報われた思いがしました。

後任が見つかるまで地域の役はなかなか辞めることができませんが、これからも元気なうちは地域のため汗を流したいと思っています。

わくわく教室では、バドミントン、缶蹴り、一線野球、縄跳び、昔遊びの「ねことん」など、また、児童の希望でカルタ、百人一首、坊主めくりもしました。児童との交流が楽しいと言われる参加者の声を聞くとうれしくなりました。

コーディネーターだよりの発行

学校行事の紹介と「わくわく教室」「掃除ボランティア」として当日のお手伝いや人集めに協力しました。この行事を基にしてTYSテレビの「ふるさとCM大賞」に応募、平成28年の大賞を栗野小学校が受賞したこともいい思い出です。駅の掃除が認められ児童は下関市教育長から表彰されました。

宝蔵山山頂での終了式

栗野小学校の校歌に「宝蔵山に抱かれて」と謳われ、校舎は宝蔵山の山麓にあります。閉校する3年前位から、宝蔵山山頂での終了式が始まり、登山道作りに協力しました。

青のり採り体験

栗野川は冬の青のりが有名です。児童に青のり採り体験をしてもらう行事は全てコーディネーターが準備しました。漁協の許可、船の手配、学校までの運搬、洗つて干すまでの道具、手伝いの人数集めなどです。山口県教育に、6年生が青のり採りの思い出を書いてくれたものがありました。

いろいろ苦労もありましたが、頂上から校舎に向かって校歌を歌う児童を見たとき、閉校後に「地域の方と遊べるわくわく教室が楽しかった」とある児童がと言つていたことを人づてに聞いたとき、青のり採りが楽しかつたと児童が言つてくれたとき、コーディネーターの苦労が報われた思いがしました。

後任が見つかるまで地域の役はなかなか辞めることができませんが、これからも元気なうちは地域のため汗を流したいと思っています。

する行事をしたいと校長先生から提案があり、月に一度、昼休み時間を「わくわく教室」に当て交流も始めました。

わくわく教室では、バドミントン、缶蹴り、一線野球、縄跳び、昔遊びの「ねことん」など、また、児童の希望でカルタ、百人一首、坊主めくりもしました。児童との交流が楽しいと言われる参加者の声を聞くとうれしくなりました。

(一財)
山口県
教育会

入会のご案内

学校(園)の教育活動を支援



地域活動を推進



伝統文化を継承



情報を効果的に発信



子どもも大人も夢をもって生きる豊かな学校や地域の創造にあなたの力を!!

あなたの会費を こんなことに役立てます

学校(園)の教育活動を支援します

- ・個人、学校(園)、グループ、サークルへの研修助成(コミュニティ・スクールの充実を含む)
- ・若手教員を対象とした研修会の実施

地域活動を推進します

- ・「やまぐち教育の日・教育県民大会」の開催
- ・地域協育ネットの活動充実のための助成
- ・地区別教育振興フォーラム、史蹟探訪等の地域活動助成

伝統文化を継承します

- ・「金子みすゞ賞」童謡詩募集
- ・「わたしの志」作文募集
- ・地域の文化遺産や伝統文化の継承活動助成

情報紙「山口県教育」を発行します

- ・会員相互の情報交流

詳しくは、ホームページをご覧ください

山口県教育会



<http://www.ykyoikuk.or.jp>

入会にあたって

1 対象

- ・保育園・幼稚園、学校等の現職教職員と退職者
- ・一般県民、学校(園)のPTA会員、教育関係機関の職員、諸団体の職員

2 会費(年会費)

- ・通常会員 2,000円(初年度は1,000円)
- ・賛助会員 3,000円
- ・終身会員 50,000円(入会時のみ)

3 入会申込

- ・現職教職員の方は、学校(園)の担当者に
- ・一般の方は、(一財)山口県教育会事務局、または、各支部担当者に

(一財) 山口県教育会(組織課)

TEL 083-922-0383

FAX 083-922-5768

Email ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp